

重症急性膵炎患者における入院 48 時間以内の早期離床と Hospital-Associated Disability 発生との関連

済生会熊本病院では、医学の発展のため患者さんの診療情報等を使用し、本研究を実施しております。ご質問や利用停止等のお申し出は、「問い合わせ先」へご連絡下さい。

研究の目的と方法

重症急性膵炎では、全身の強い炎症、痛みや吐き気、呼吸・循環状態の不安定化、治療用の管の留置などによって、入院早期から活動量が低下しやすくなります。その結果、筋力や日常生活動作が低下する可能性があります。一方、入院後早期からのベッドの端に座る、車椅子へ移る、立つ、歩くといった「早期離床」が、退院時の日常生活動作の低下とどのように関係するかは、十分に明らかになっていません。

本研究では、重症急性膵炎と判定された患者さんを対象に、入院後 48 時間以内にベッドから足を下ろし座ったり、歩いたりができたかどうかと、退院時の日常生活動作の低下（入院関連機能障害：HAD）との関連を明らかにすることを目的としています。また、早期離床を行った患者さんの安全性について、初回離床時の転倒、血圧低下、不整脈、低酸素、治療用の管の予期しない抜去、腹痛・悪心・嘔吐の悪化などの有害事象についても調査します。

本研究では診療を通じて得られた情報を使用しますので、新たな検査や調査をお願いすることはありません

研究の対象となる方

2015 年 4 月～2026 年 3 月に当院に入院した 18 歳以上の重症急性膵炎と判定された患者さん

使用する試料・情報

年齢、性別、BMI、採血データ、座位開始までの日数、歩行開始までの日数、在院日数、転帰など
使用開始予定日：2026 年 9 月 17 日

研究予定期間

2026 年 9 月 17 日～2028 年 5 月 31 日

個人情報の取り扱い

研究情報は、許可された研究者のみが使用します。研究成果を学会等で発表予定ですが、個人が特定されないよう氏名等を削除した情報や集計結果を用いますので、プライバシーは守られます。

〔研究の情報管理責任者〕 リハビリテーション部 大崎敬之

〔当院の個人情報管理責任者〕 院長 中尾浩一

研究への協力について

研究目的にご自身の診療情報等を利用されることを希望されない場合は、研究対象とせず、利用を停止すると共に、収集した情報等も可能な限り削除します。本研究への協力は患者さんの治療とは関係が無く、ご協力いただけない場合も患者さんに不利益が生じることはありません。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ます。

問い合わせ先

済生会熊本病院 リハビリテーション部 大崎敬之

住所：熊本市南区近見 5 丁目 3 番 1 号 電話：096-351-8000(代表)